

COIの軌跡一冊に

周弘大活動 健康意識向上に期待

「寿命革命」出版

弘前大学COIとCOI-NEXT (COIネクスト)の発展プロセスをまとめた書籍「寿命革命」(継田治生著、ダイヤモンド社刊)が全国の書店やオンライン通販などで発売された。今年度は大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」20年目の節目。さらに「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」始動を間近に控えた同大には、本の出版をきっかけに、同大を中心としたヘルスケア分野の研究開発、社会実装、地域発展の加速につながる事が期待される。

(稲葉智絵)



弘前大学COI、COIネクストの発展プロセスをまとめた本を手にする村下教授

出版は25日。サブタイトルを「Well-being Innovation」(ウェルビーイングイノベーション)の健康や幸福、イノベーション―新たな価値を生み出す―とした。同大は「日本の短命県からの脱却を目指す」、2005年から弘前市などと同市岩木地区の住民を対象にした岩木健診を開始。同健診で蓄積した世界的に類を見ない超多項目な健康ビッグデータを核に、13年から同大COI、22年からCOIネクストを拠点として地域住民や弘前市、県、全国各地の大学、企業などを巻き込んだ多角的な改革を実践。県民の健康寿命延伸や地域活性化につながる多数の研究成果を挙げた。

同書は六つの章で構成。岩木健診をはじめ、同大COIの共同研究や成果、地域社会への波及効果などを、連携大学や企業の担当者、政府関係者らのインタビューを交えながら紹介。参画企業の担当者らが「産官学が融合したヘルスケアの未来」について語る座談

た小宮山宏氏は「住民の健康づくりを実践する産官学民の取り組みを行う弘前大COIの活動を知る最高の1冊」と推薦文を寄せた。同大COI発足時からリーダーを務める学長特別補佐・健康未来イノベーション研究機構長の村下公一教授は「岩木健診のビッグデータからすべては始まった」とし、同健診に参加した地域の方々に改めて感謝。今回の本をきっかけに「国内外から注目を浴びるプロジェクトを地方大学である弘前大が中心となって取り組めることを広く知ってもらいたい。さらに、短命県返上に向け、地域の皆さんが問題意識を高め、健康の未来を切り開く行動変容につながってくれたらうれしい」と述べた。